

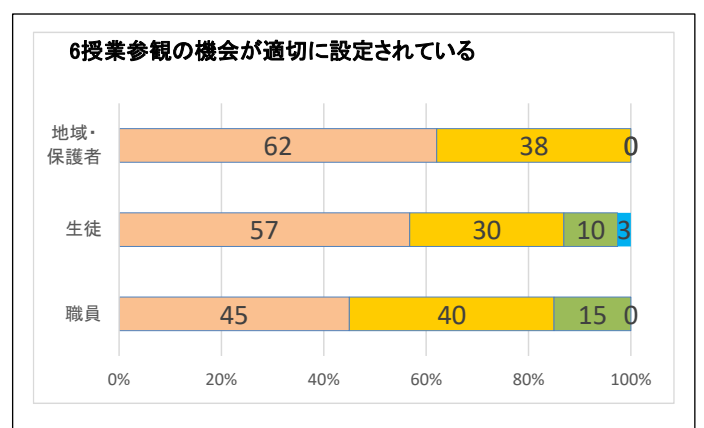
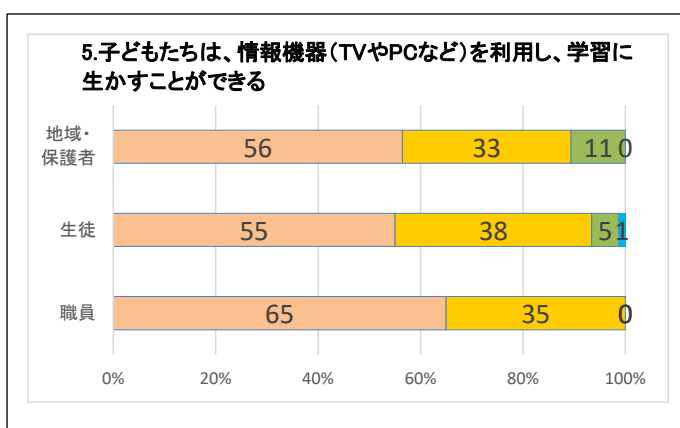
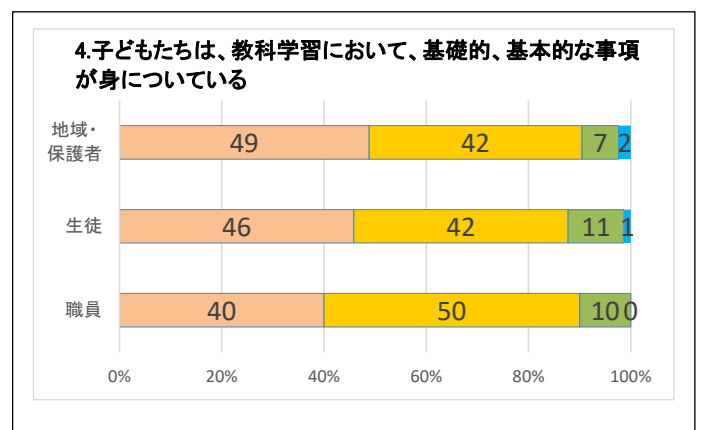
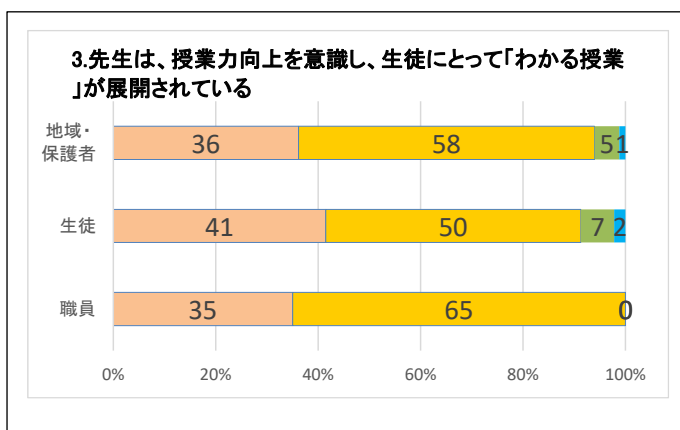
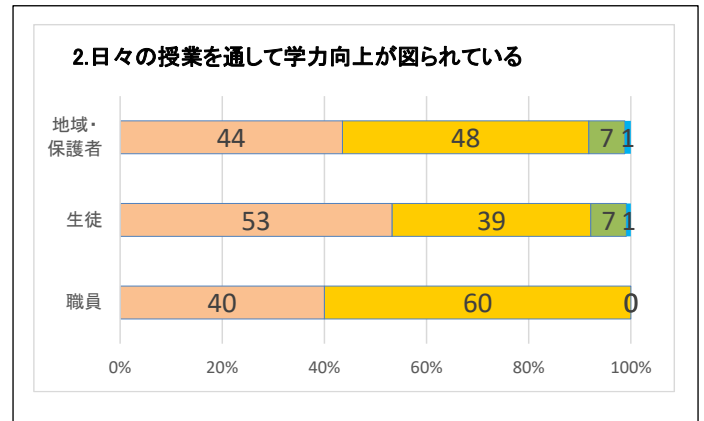
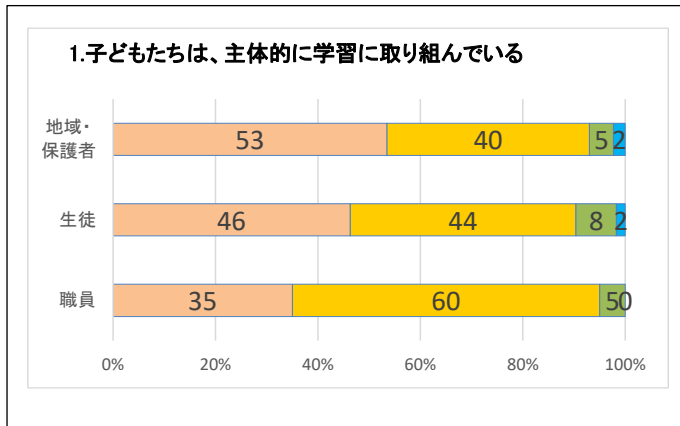
令和5年度軽井沢中学校学校評価のまとめ

アンケート実施 令和5年11月28日（火）～12月8日（金）〔Google Forms とマークシートにて〕

アンケート回収人数（生徒229名、保護者・地域の方90名、教職員20名）



【授業改善】



☆以下の数値は、「そう思う」・「やや思う」の%を合計した数値です。

1. 生徒（90%）、地域・保護者（93%）、教職員（95%）
2. 生徒（92%）、地域・保護者（92%）、教職員（100%）
3. 生徒（91%）、地域・保護者（94%）、教職員（100%）
4. 生徒（88%）、地域・保護者（91%）、教職員（90%）

5. 生徒（93%）、地域・保護者（89%）、教職員（100%）

6. 生徒（87%）、地域・保護者（100%）、教職員（85%）

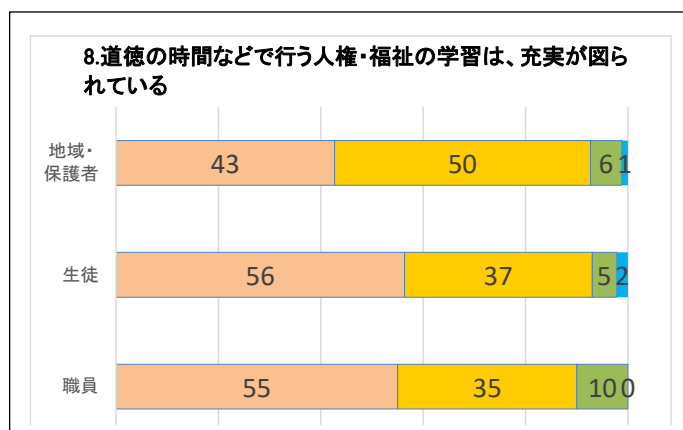
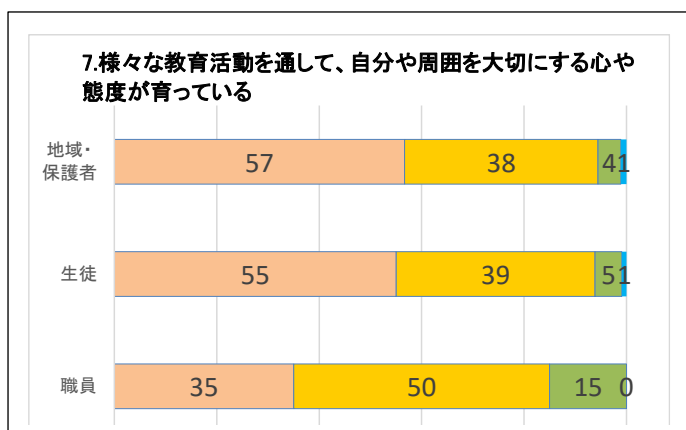
○1の項目では、令和4年度に比べ、生徒の評価が0ポイントと変わらず、地域・保護者は2ポイント下がり、教職員は1ポイント上がりました。2の項目では、生徒が3ポイント下がり、地域・保護者が4ポイント上がり、教職員は、全て「そう思う」「ややそう思う」と答えています。3の項目では、生徒の評価が1ポイント下がり、保護者が4ポイント上がり、教職員は5ポイント下がりました。4の項目では、生徒の評価、地域・保護者が0ポイントと変わらず、教職員は10ポイント下がりました。5の項目に関しては、生徒の評価が2ポイント上がり、保護者が3ポイント下がり、教職員は、全て「そう思う」「ややそう思う」と答えています。6の項目に関しては、令和4年度に比べると、生徒は2ポイント、地域・保護者は8ポイント上がりました。一方で教職員は5ポイント下がりました。

○全体的な数値は、昨年度と比べ多少の増減はあるものの、大きな変化は見られず肯定的な意見を得られる結果となりました。今年度、「指導と評価の一体化」と「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向け、職員研修を行ってきました。多くの教科でペアワークやグループ・ワーク、ディベート、グループ・ディスカッションなどを取り入れたアクティブラーニングの授業展開を意識してきました。また、生徒が能動的に学ぶことによって基礎・基本を身に付けるとともに、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験などの汎用的能力の向上や育成を目指してきました。

○GIGA スクール構想によって整備された1人1台端末等を活用した学習活動を進めております。授業では主に調査活動や思考活動、協働活動、制作活動などに用いられ、活用場面を積極的に増やしてきました。今後もすべての生徒の可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、1人1台端末等の活用の充実を図っていきます。今後も引き続き生徒の資質・能力の向上に資する取組を行っていきます。

○授業参観については、体育祭や合唱祭で参観に制限があった昨年までと比較した結果と考えられます。地域・保護者の方々は生徒の活動に関心をもっていただいていることを反映していると考えます。

【道徳教育・人権教育】



☆以下の数値は、「そう思う」・「ややそう思う」の%を合計した数値です。

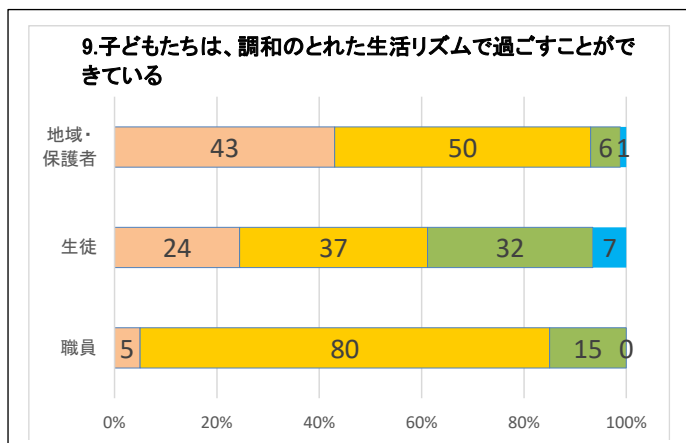
7. 生徒（94%）、地域・保護者（95%）、教職員（85%）

8. 生徒（93%）、地域・保護者（83%）、教職員（90%）

○7の項目である「自分を大切にすること、自分と同じように他の人も大切にすること」という、人権教育において欠かすことのできない視点に高いポイントが得られたことはよかったです。また8の項目に関しては、令和4年度と比較すると、生徒、地域・保護者は同ポイント、教職員は10ポイント減りました。引き続き道徳の時間を要として、人権教育や福祉学習の充実が図れるよう工夫していけたらと思います。



【健康教育】

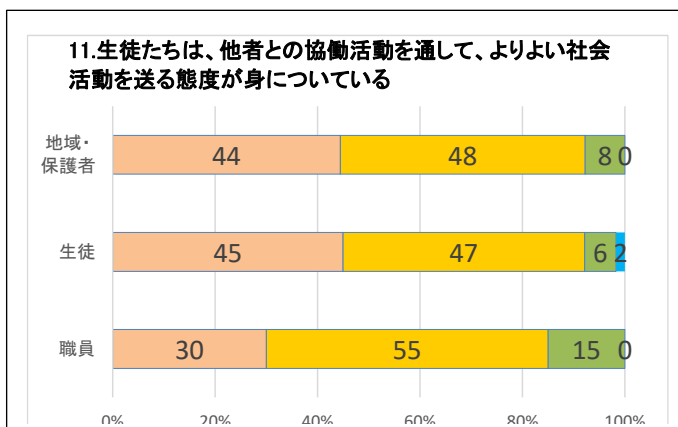
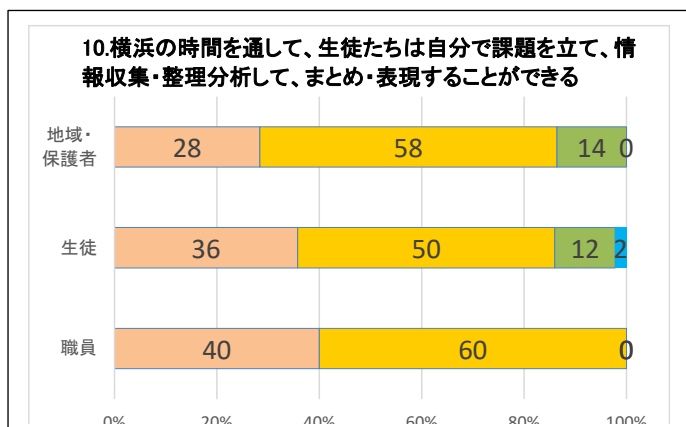


☆以下の数値は、「そう思う」・「やや思う」の%を合計した数値です。

9. 生徒（61%）、地域・保護者（93%）、教職員（85%）

○9の項目は、生徒は3ポイント、地域・保護者は3ポイント、教職員は2ポイント上がっています。また、地域・保護者と生徒の間で数値が20%以上も違うことが分かります。生徒自身が調和のとれたリズムで過ごせていない、と感じている割合が高いようです。生徒が主体となって自身の健康課題を考える機会を増やし、心身の健康の保持増進のために、保護者と連携して、生活習慣の改善を図っていききたいと思います。

【横浜の時間】



☆以下の数値は、「そう思う」・「やや思う」の%を合計した数値です。

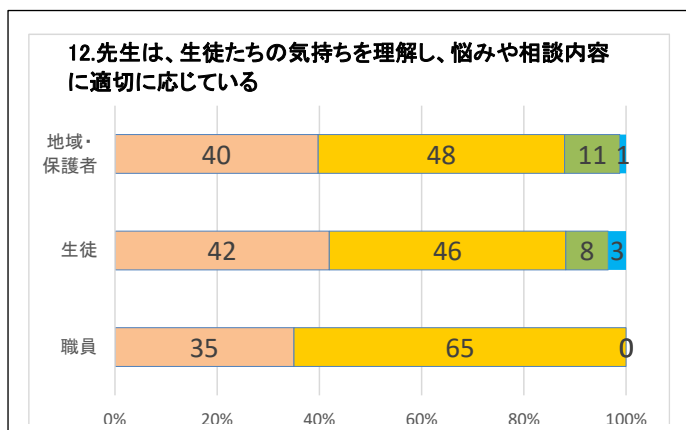
10. 生徒（86%）、地域・保護者（86%）、教職員（100%）

11. 生徒（92%）、地域・保護者（92%）、教職員（85%）

○10の項目では、「横浜の時間」を中心とした情報活用能力の力がついていることを示していると思います。引き続き学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力の育成に努めていききたいと思います。

11の「他者との協働活動」の項目で、教職員のポイントが他の項目と比べるとやや低い数字を示しています。ここ数年コロナ禍の影響で、コミュニケーションを控えざるを得なかったことも影響していることも原因として考えられると思います。10・11の項目を通して、今まで上がってこなかった「そうおもわない」が若干ですが数値があがってきていることが気になります。生徒が自信をもって他者とコミュニケーションを図ることができるように工夫していききたいと思います。

【いじめへの対応】



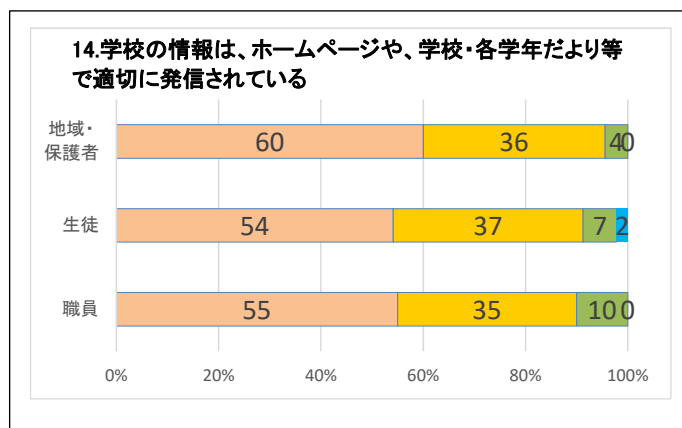
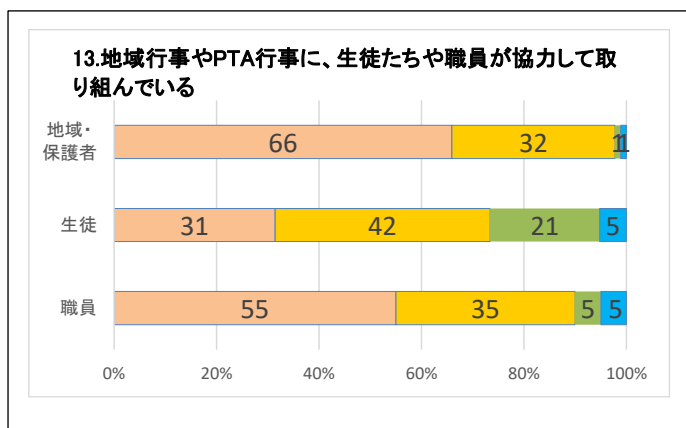
☆以下の数値は、「そう思う」・「やや思う」の%を合計した数値です。

12. 生徒（88%）、地域・保護者（88%）、教職員（100%）

○生徒・保護者ともに88%でした。今後も教職員がさらに生徒達とのコミュニケーションを大切にして、いつでも、誰でも相談できる環境作りをしていかなければならないと思います。年間4回の教育相談以外にも生徒との会話が出来る時間を確保していく必要があると考えます。



【地域学校協働活動】



☆以下の数値は、「そう思う」・「やや思う」の%を合計した数値です。

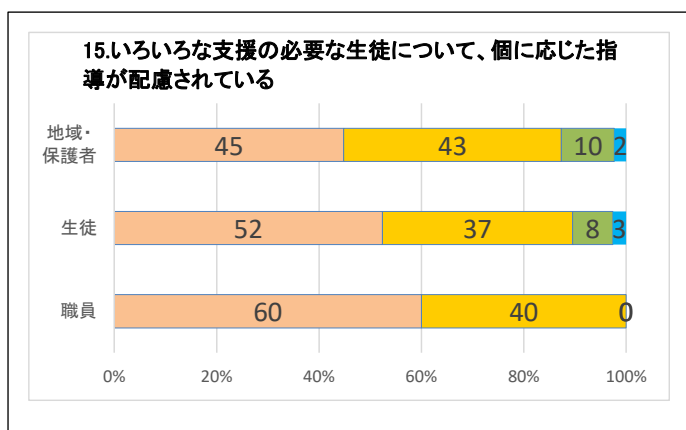
13. 生徒（73%）、地域・保護者（98%）、教職員（90%）

14. 生徒（91%）、地域・保護者（96%）、教職員（90%）

○13の項目では、生徒が8ポイント、地域・保護者が3ポイント、教職員は1ポイント増えました。コロナ感染症対策の影響で、取り組めなかった地域ボランティア活動やPTA行事に、今年度は取り組むことができました。生徒の活動をほめたり、主体的に参加する意識を高める手立てを工夫し、生徒の活動意識が高められるよう、今後も支援したいと思います。

○14の項目では、生徒が4ポイント、地域・保護者が2ポイント、教職員が10ポイント減りました。学校便りを毎月発行し、ホームページの更新も行ってきました。引き続き、学校情報が発信できるよう、実施していきたいと思っています。

【特別支援教育】

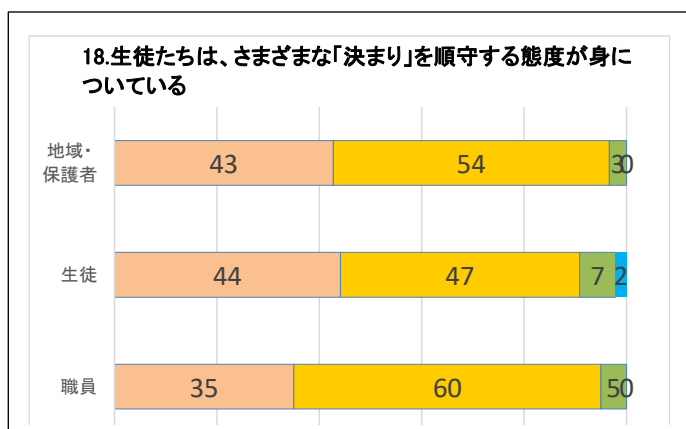
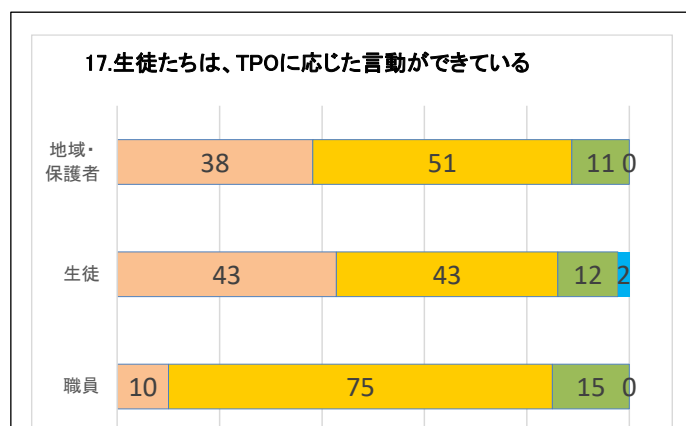
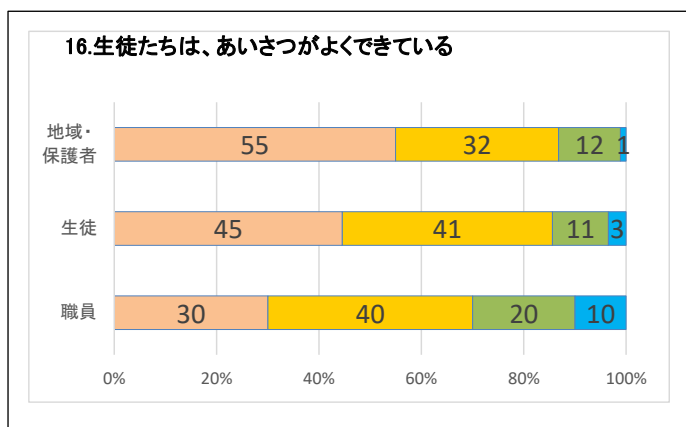


☆以下の数値は、「そう思う」・「ややそう思う」の%を合計した数値です。

15. 生徒（89%）、地域・保護者（88%）、教職員（100%）

○15の項目は、昨年と比べると生徒が1ポイント増えてはいますが、一昨年と比べると3ポイント減少しています。また、地域・保護者が7ポイント減少しています。職員の生徒に対する思いや、具体的な支援の方法と、保護者や生徒が学校に対して感じている、生徒自身の困り感に対する学校の対応にずれが生じています。日々の声掛けや情報の共有はもちろんですが、引き続き職員自身が生徒の気持ちに寄り添い、相談しやすい関係性を築いていくことが必要だと思われます。

【生徒指導】



☆以下の数値は、「そう思う」・「ややそう思う」の%を合計した数値です。

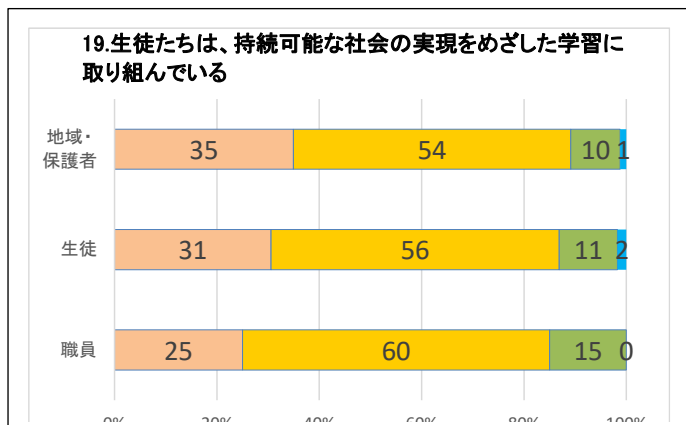
16. 生徒（86%）、地域・保護者（87%）、教職員（70%）

17. 生徒（86%）、地域・保護者（89%）、教職員（85%）

18. 生徒（91%）、地域・保護者（97%）、教職員（95%）

- 16の項目については、生徒と地域・保護者の評価は高いですが、教職員は低くなっています。挨拶がまだできていないと感じている教職員が一定数いるという結果になりました。教職員が率先して挨拶をすることはもちろんですが、色々な場面でしっかりと挨拶ができるように今後も指導していきたいと思います。
- 17の項目は生徒、保護者・家庭、教職員とも、昨年度から下がっています。様々な場面でTP0の指導が必要だと思います。
- 18の項目は生徒、保護者、教職員ともに高い評価になっています。生徒の自尊感情を高めながら、今後とも決まりを守ることの大切さを生徒に発信していきたいと思います。

【E S Dの推進】



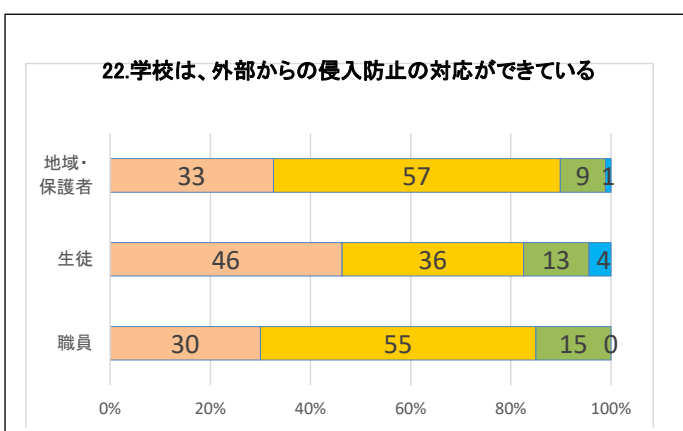
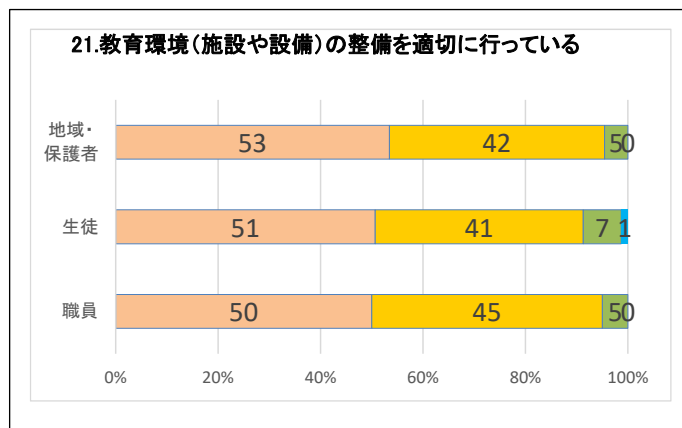
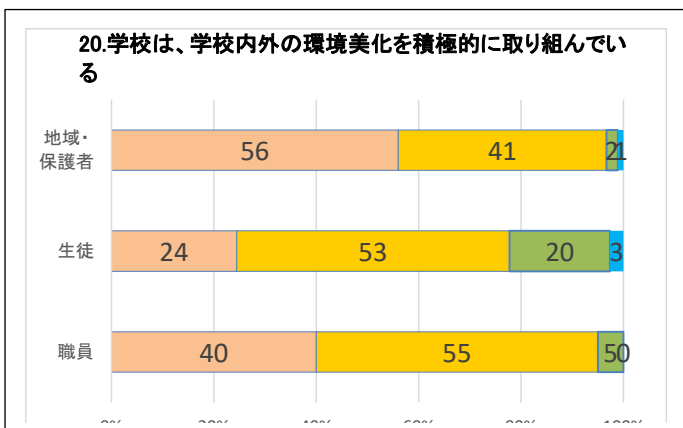
☆以下の数値は、「そう思う」・「ややそう思う」の%を合計した数値です。

19. 生徒（87%）、地域・保護者（89%）、教職員（85%）

- 19の項目に関しては、生徒は1ポイント、地域・保護者は2ポイント、教職員は15ポイント下がりました。「E S D」は新学習指導要領にも記載され、各教科でも取り上げられるようになってきました。また、学習のまとめとして学年末の時期に取り上げる教科もあるため、アンケートの時期には意識が薄らいでいることもあると思いますが、今後もE S Dの大切さを示すとともに、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身につけるような学習を推進していけるよう、努める必要があります。



【施設・設備等】



☆以下の数値は、「そう思う」・「やや思う」の%を合計した数値です。

- 20. 生徒 (77%)、地域・保護者 (97%)、教職員 (95%)
- 21. 生徒 (92%)、地域・保護者 (95%)、教職員 (95%)
- 22. 生徒 (82%)、地域・保護者 (90%)、教職員 (85%)

○20の項目については、生徒が4ポイント下がりましたが、地域・保護者が7ポイント、教職員は1ポイント上がっています。日頃の清掃などの取り組みなどを見直し、今後の指導に活かしていきたいと思えます。

○21の項目では、生徒が4ポイント、地域・保護者が1ポイント減り、教職員は6ポイント増えました。引き続き施設や設備等の教育環境の整備を適切に行っていくよう努めていきます。

○22の項目では、昨年度より生徒の評価は4ポイント減り、地域・保護者は6ポイント増え、教職員は9ポイント下がりました。前年度同様、学校関係者以外も校地に入ることができるので、今後とも教職員で学校利用者に対する意識を高める必要性を感じています。

【全体を通じての成果と課題】

・「挨拶」については地域・保護者、生徒は比較的高い評価ですが、「あまりできていない」と感じている教職員が一定数いるという結果になっています。また、「挨拶やTPOに応じた言動」や「決まり」を守ろうとする態度については、生徒の「そうおもわない」数値が徐々に上がってきている傾向があります。感染症予防の影響から「積極的に大きな声であいさつをすること」の奨励がされてきていなかったことも大きな要因の一つであると考えます。また、TPOに応じた言動についても時代の変化も否めませんが、「言動は他者を尊重しようとする心の現れ」でもありますから、円滑なコミュニケーションを築くスキルの一つとしても身につけさせたい重要な事柄の一つであると考えます。

・学習面では、従来通りほとんどの生徒は学習に前向きな取り組みが見られます。その一方で、少数ではありますが苦手意識を持っている生徒が意欲的に取り組めるよう、丁寧な授業展開を心掛けたり、教材を工夫したりしながら、粘り強く指導していくことが大切であると考えます。また、現在の指導要領で謳われているように、他者との比較ではなく、生徒ひとり一人の力や生涯を通じて学び続けていく力を伸ばしていけるよう、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、引き続き研鑽を深めていきたいと思えます。

・生活面では、アンケート項目12「先生は、生徒たちの気持ちを理解し、悩みや相談に適切に応じている。」では、教職員と生徒の間に12%の開きがありました。時代に対応したそれぞれの悩みや相談内容にきめ細かく対応していけるよう、研修を重ね支援していきたいと思えます。

・課題としては、アンケート項目9の「子供たちは、調和のとれた生活リズムで過ごすことができている。」です。体調不良から保健室を訪れる生徒の多くが十分な睡眠をとれていない現状から「生活リズムを整える、整えた生活リズムを継続する」ことの難しさがさらに浮き彫りになっているように思えます。また、その多くがスマホやインターネット等の影響にあることも否めません。SNSの使い方も含めて、この項目の改善策を検討し、令和6年度も引き続き家庭との連携を深めながら改善していきたいと思えます。